



さかな ゴミにすむ魚たち

おおつかゆきひこ
大塚幸彦作

こうだんしゃ
講談社

ここは海の底。空き缶の家から顔をのぞかせる黄色い魚。イソギンチャクで華やかに飾られたタイヤにすむウツボ。人間がすてたゴミをうまく利用して、たくましく生きる魚たちがいる。その姿は、どこかユーモラスだ。

だからといって、海にゴミをすてていいわけじゃない。釣り針や魚網などのゴミは、生きものを苦しめる。自然にかえらないゴミは、一度すてられると、ずっと海の中に残ったままだ。

ゴミとともにある身近な海の現状を、あざやかに写し出す。

